

H30年度 厚生労働科学研究費補助金  
(慢性の痛み対策研究事業(慢性の痛み政策研究事業))  
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究  
分担研究報告書

山口大学ペインセンターの構築とカンファレンスシート導入に関する研究

研究分担者 鈴木 秀典 山口大学大学院医学系研究科 助教

### 研究要旨

山口県内に慢性疼痛治療の拠点となる山口大学ペインセンターを設立し、集学的治療を実践した。さらには県内の医療連携システムを構築し、ペインセンターを中心とする地域の医療システムを構築した。また全国に先駆けて、多職種にわたる慢性痛医療スタッフを育成するための痛み教育センターを設立し、医学教育を開始し、その普及を図った。さらに患者評価の重要なツールの1つとなる、カンファレンスシートについて、山口大学病院で使用している電子カルテ内に直接導入し、日常診療における患者評価ツールとして常時使用するシステムを完成させた。中国ブロックにおける診療連携システムの構築のため、岡山大学運動器疼痛性疾患治療研究センターと連携し、中国地方での各種研修会や市民公開講座を開催した。

#### A. 研究目的

山口県内に慢性疼痛治療の拠点となるペインセンターの設立を行い、地域の中心的な拠点センターとしての機能を確立させること。また実際に集学的治療を実践するなかでのシステム上の問題点を指摘し、これを研究班にて検討すること。また全国痛みセンターで今後使用するカンファレンスシートの初期導入を行い、実際の運用を行うことで、その問題点や改良点を見出すこと。さらには、中国ブロックにおける診療連携システムの構築を行うことである。

#### B. 研究方法

平成26年から設立した山口大学ペインセンターのセンター化と標榜を行い、さらには地域の痛み医療に関する啓蒙・教育活動を進め、山口県内の慢性疼痛医療システム・病院連携システムを進める。またペインセンターでのカンファレンスにおいて、カンファレンスシートの導入を行い、患者評価を進める中でその利点と問題点を検討する。また、中国ブロックにおける診療連携システムを構築するため、医療従事者を中心に慢性痛に関する講習会を開催し、診療連携をすすめる。  
(倫理面への配慮)

カンファレンスシートなどのペインセンタ

ーでのデータに際しては、山口大学 IRB への倫理審査提出を予定しているが、現時点では具体的な患者データの利用や公表などはないため、倫理面での問題はない。

#### C. 研究結果

山口大学ペインセンターでは、整形外科、ペインクリニック科、精神神経科・リエゾン科、理学療法士、作業療法士による集学的治療を実践している。山口大学病院内に3床のベッドを持ち、地域や各科単独では治療困難となった慢性痛患者の診療にあたっている。隔週でのカンファレンスを行い、独立したユニットとして患者治療にあたっている。カンファレンスシートについては、愛知医科大学学際的痛みセンターで使用しているものを基本として、使用しやすい形に改訂した上で、山口大学病院内の電子カルテ内に実際に導入した。カンファレンスシートは日常業務内での患者データの管理、カンファレンスでの記録、また多職種医療者の意見などのデータを総合的に記録してカルテ内に直接残すことが可能となった。後利用データとしてファイルを取り出すことも可能なため、その利便性は高い。現在は、山口大学ペインセンターでの入院患者は全例このシステムを用いて患者評価を行い、カンファレンスなどでの情

報をもとに、各医療関係者がこのシートに多面的評価を記載していくことで、患者情報や治療方針などが一元的に管理できるようになった。またすべての医療関係者がこのカンファレンスシートにアクセスできるため、治療方針の統一が図られるようになった。

山口大学ペインセンターにて集学的なユニットが治療介入を行い、カンファレンスを行い、実際の治療を行った患者は、昨年度に引き続き、H30年度は約40人であり、その数は増加傾向にある。また、中国地方での医療関係者向けに、「慢性疼痛診療研修会」を3回開催した。あわせて約120名の医療関係者に集中的な痛み診療の啓蒙活動を行った。山口県内では当ペインセンターは広く知られる存在となり、難治性疼痛治療に苦慮した際の紹介先として連携システムが機能している。山口大学ペインセンターを中心とする慢性痛患者の地域医療システムが確立した。

また集学的治療を行う上で、多職種の医療スタッフに対する医学教育は我が国における最重要課題である。抜本的な問題解決のため、現在、山口大学に慢性痛医学教育センターを設置し、実際のカルキュラムを作成した上で、慢性痛に関する医学教育の普及と標準化を行い、全国レベルで展開している。現在約700名の受講者に痛み教育活動を進めている。

#### D．考察

山口大学ペインセンターでの慢性痛患者に対する集学的治療のシステムは確立しており、また山口県内においては、山口大学ペインセンターを中心とする地域医療連携が構築された。さらには、中国ブロック全体においても、痛みセンターを中心とする診療連携システムが確立しつつある。日常診療上は、患者・医療スタッフにとって、ともに診療を円滑化し、これまで対応困難であった慢性痛患者を実際に治療可能とし、約半数程度で治療の有効性を見いだすまでの治療成績を獲得できるようになった。大きな問題点は、診療報酬やコストを含めた本邦におけるシステム自体であるが、今後の改善に期待したい。カンファレンスシートも、日常診療のツール

として、またデータの記録の観点から、電子カルテ内での管理と評価のツールとして日常診療に導入して運用をおこなった。今後はデータの公表などを含めて、このシステムを全国に展開していく必要がある。

#### E．結論

山口大学ペインセンターを中心とする山口県内の慢性疼痛医療の地域連携システムの構築に関する現状を報告した。患者評価の重要なツールの1つである、カンファレンスシートの導入と実際の運用について報告した。また、医療従事者や一般市民に対する痛み診療に関する教育や啓蒙活動を行った。

#### F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

#### G．研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Okazaki T, Kanchiku T, Nishida N, Ichihara K, Sakuramoto I, Ohgi J, Funaba M, Imajo Y, Suzuki H, Chen X, Taguchi T. Age-related changes of the spinal cord: A biomechanical study. *Exp Ther Med*. 2018;15(3):2824-2829.
- 2) Nakashima D, Kanchiku T, Nishida N, Ito S, Ohgi J, Suzuki H, Imajo Y, Funaba M, Chen X, Taguchi T. Finite element analysis of compression fractures at the thoracolumbar junction using models constructed from medical images. *Exp Ther Med*. 2018;15(4):3225-3230.
- 3) 田原周, 鈴木秀典, 泉博則, 原田英宜, 森亜希, 樋口文宏, 綿貫俊夫, 関万成, 小笠博義, 田口敏彦. 山口大学ペインセンターにおける集学的治療: リハビリテーション部での取り組みと治療成績. *日本運動器疼痛学会誌*. 2018;10(1):75-78.
- 4) 鈴木秀典, Michael G. Fehlings iPS細胞を用いた慢性期頸髄損傷治療. *末梢神経*. 2018;29(2):160-165.

- 5) 鈴木秀典. 腰痛は85%は診断できないのですか?. Loco CURE. 2018;4(4):352-356.
  - 6) 鈴木秀典, 田口敏彦. 痛みの評価法. 関節外科. 2018;37(6):574-583.
  - 7) 田原周, 鈴木秀典, 泉博則, 原田英宜, 森亜希, 樋口文宏, 綿貫俊夫, 関万成, 小笠博義, 田口敏彦. 山口大学ペインセンターにおける入院型痛み治療: 高齢者における痛みの改善に及ぼす因子の比較検討. PAIN RESEARCH. 2018;33(3):220-224.
  - 8) 田口敏彦. 集学的治療の人材育成を目指して. ペインクリニック. 2018;39(別冊春号):S285-S290.
  - 9) 鈴木秀典, 今城靖明, 西田周泰, 船場真裕. 非特異的腰痛. 脊椎脊髄ジャーナル. 2019;32(2):141-147.
2. 学会発表
- 1) 田原周, 鈴木秀典, 泉博則, 原田英宜, 森亜希, 樋口文宏, 小笠博義, 田口敏彦. 山口大学ペインセンターにおける集学的治療 リハビリテーション部での取り組みと治療成績. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 2017;9(3):S97.
  - 2) 鈴木秀典, 寒竹司, 今城靖明, 西田周泰, 船場真裕, 田口敏彦. 慢性腰痛症に対する治療 CMAP モニタリング下後枝内側枝経皮的電気焼灼術. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 2017;9(3):S56.
  - 3) 田口敏彦. 痛み教育の課題と将来展望. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 2017;9(3):S8.
  - 4) 鈴木秀典, 寒竹司, 田口敏彦, Ahuja Christopher S, Salewski Ryan P, Satkunendraraja Kajana, 名越慈人, Fehlings Michael G. iPS細胞・間葉系細胞を用いた運動器再生医療 iPS細胞を用いた慢性期の頸髄損傷治療. 日本整形外科学会雑誌. 2017;91(8):S1674.
  - 5) 寒竹司, 鈴木秀典, 西田周泰, 船場真裕, 田口敏彦. 脊椎・関節の痛みを科学

する 椎間関節の痛み 特に椎間関節性腰痛について. 日本リウマチ学会総会学術集会プログラム 抄録集.

2017;61:205.

- 6) 田原周, 鈴木秀典, 泉博則, 原田英宜, 森亜希, 樋口文宏, 綿貫俊夫, 関万成, 小笠博義, 田口敏彦. 山口大学ペインセンターにおける集学的治療 リハビリテーション部での取り組みと治療成績. PAIN RESEARCH. 2017;32(2):118.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし